

町田市ごみゼロ市民会議から市長に報告書が提出されました

これまで、ごみの減量、再資源化の方策を検討してきた公募の市民からなる「ごみゼロ市民会議」から、11月17日報告書（～もったいない精神で「ごみゼロまちだ」をつくらう～）が石阪市長に提出されました。

同会議は町田市の「ごみになるものを作らない、燃やさない、埋め立てない」の基本方針に基づき、ごみの減量、再資源化を検討するために公募した、市民委員により昨年10月にスタートしたものです。

124人の市民委員と町内会・自治会連合会選出の委員10人、アドバイザー5人、市役所職員などが生ごみ、廃プラスチック、その他の資源拡大の3部会11分科会

と広報・環境教育、ごみゼロ市役所推進支援の2つのチームを立ち上げ、のべ280数回におよぶ会合と実証実験など約1年かけて取り組んできました。

報告書は提言と各分科会の活動報告などからなり、提言では「ごみゼロまちだ」の実現のために市民と行政が一体となり具体的に取り組むための6項目が挙げられています。

市民会議では町田市に対し、この提言を実行できるものはすみやかに実行し、難しいものについてはその理由説明と代替案などを市民に示すことを要望しています。提言の内容は以下のとおりです。

1. 家庭生ごみの全量資源化を計画的に進める

(1) 生ごみの堆肥化を市民の手で行う

可燃ごみの約40%を占める生ごみの資源化は、個人の手により処理が可能な堆肥化を基本とする。生ごみ処理機器（堆肥化容器及び電動生ごみ処理機等）を貸与し、地区単位、棟単位で面的に展開する。戸建住宅での実験結果を踏まえ、家庭で生成した1次生成物は、各自活用するか、行政が回収して有効活用する。

(2) 生ごみの堆肥化をみんなで学び、支えあう

市民の堆肥づくりの啓発・普及を、町内会・自治会連合会、廃棄物減量等推進員をはじめ市民団体の協力を得て行うとともに、堆肥化の知識や技術を持つ経験者市民の参画を得て、地域住民と密着した各種の要請に応える体制をつくる。生ごみ処理機器による堆肥づくりを進めるにあたっては、メーカーとの連携による万全な機器メンテナンス・サポート体制をつくる。

(3) 生ごみは資源として土に戻し、野菜を育てる

家庭から出された生ごみ及び家庭でつくられた1次生成物を、市内農家が安心して使用できる優良な完熟堆肥に加工するための「堆肥化センター」（仮称）の設置について、市内農業関係者と協議する。

家庭から出された生ごみ及び家庭でつくられた1次生成物は、市内農家や市民農園等で有効活用するとともに、家庭生ごみ堆肥で栽培された農産物は、家庭をはじめ、学校や病院等へ提供し、地産地消を推進する。

(4) バイオガス化と生ごみの分別収集について

生ごみの資源化方策の一つとして、バイオガス化のための「家庭から生ごみのみを直接分別収集する」実験を行い、また、町田市初の「生分解性プラスチック袋」の使用も試みた。市は生ごみの直接収集によるバイオガス化を検討する。

3. 発想の転換で、資源化の新しい広場・しくみをつくる

(1) 中心拠点としての「リサイクル広場まちだ」構想

延べ25日に及んだ「実験・リサイクル広場まちだ」に対する、実験期間中の来場者の評価はきわめて高く、特に実験後も存続を求め、各地域への分散設置への要望も多く寄せられたので、早期に体制を整えて本格的開設につなげる。

「リサイクル文化センター」を「リサイクル広場まちだ」に名称変更し、「実験・リサイクル広場まちだ」の機能を常設化する。

「実験・リサイクル広場まちだ」の機能を、以下の観点から強化し、実施に移す。

- ・ごみではなく資源として活かす新たな場
- ・持ち込み方式の中心拠点
- ・市民が目を見て、考える環境教育の場
- ・「ごみゼロ」を市民同士が話し合うコミュニケーションの場
- ・努力した市民が報われるポイントシステムの検証と還元窓口
- ・リサイクル公社、働けバンク、花の家、資源協同組合との協働

(2) 持ち込み方式の地域展開

各地区に小規模のリサイクル広場を設置し、市内全域に展開する。

空き缶の回収機と結びついた小さな拠点を市民の手で作成し、行政が支援していく。

(3) 現行の資源回収システムの見直し

現行のシステムを見直し、新たな経費を増やさずに資源回収場所での資源化品目を増やし、全市的に展開する。

リユースビンの優位性を生かし、普及させる循環システムを確立する。

2. プラスチックごみの減量、資源化は、できることから始める

(1) 市民レベルで、とにかくやってみる

Noレジ袋とマイバッグ持参を心がけ、プラスチック製容器包装材を使用した商品ではなく、できるだけ紙材を使用した商品を選択するなど、市民が暮らしの中で実践を積み重ねる。

プラスチック材を資源化の容易な紙材等へと代替する、またプラスチック製容器包装材等の店頭回収を推進する方策について、関係者との協議の場を設けるとともに、消費者である市民の力を結集して、行政とともに事業者へ積極的に働きかけていく。

(2) 町田らしい処理方法を専門的な立場から考える

発生抑制、排出抑制を基本に据えたプラスチックごみの資源化や処理方法を調査研究する。その一環として、家庭で分別された柔らかいフィルムシートを収集し、低圧圧縮処理をするモデル地区実験を試みる。

調査研究や実験のプロセスは市民に公開し、その透明性を確保するとともに、専門家も交えて、安全性をはじめとする技術的な検討を加えながら、その適否を判断する。

(3) 市民、事業者、行政による三者協議の場を設置して問題解決をめざす

条例制定をめざして、スーパー等でのレジ袋の無償配布の廃止や有料化の具体策を探る。

4. まず「ごみゼロ市役所」を実現する

「ごみゼロ市役所」を推進する責任体制・組織づくりに直ちに着手し、市長以下、職員が一丸となって「ごみゼロ市役所」を実現し、市内の公共施設、事業所のモデル拠点とする。

5. 見て、触れて、感じる環境教育を実践する

子どもから大人までの幅広い層を対象に、環境教育を全市的に展開していく。特に小学校への出前講座などを充実させる。

町内会・自治会連合会、ごみ減量連絡協議会、廃棄物減量等推進員などの協力を得ながら、環境教育と啓発活動を推進する。

新しい「リサイクル広場まちだ」を今後の環境教育と実践の中心拠点とする。

6. 市民が市民に話しかける「ごみゼロの風」を継続する

市民の編集による広報紙「ごみゼロの風」の発行を通して、発行責任、編集権の所在、市の広報との関係など、市民が市民の合意を得て編集することの大切さと困難さを実感した。

この貴重な経験を生かし、「ごみゼロまちだ」を推進する一環として「ごみゼロの風」の発行継続を追求する。ただし、市民編集の広報発行は、「ごみゼロまちだ」を推進する市民の新しい母体組織の存在が前提である。

健康づくり

幼児食講習会

対象 平成18年1月～6月生まれの子と保護者

日時 1月8日(火) 午前9時50分～正午

会場 健康福祉会館

内容 幼児期の栄養と発達についての話、試食、グループ相談

定員 25組(申し込み順)

一度参加された方や、きょうだいをお連れでの参加はご遠慮下さい。

申し込み 電話で町田市コールセンター ☎724・5656へ。

申し込み 電話で町田市コールセンター ☎724・5656へ。

こつこつ教室

骨粗しょう症のお話です。

日時 12月12日(水) 午前10時～午後3時30分(9時45分から受付)

会場 健康福祉会館

内容・講師 午前「骨粗しょう症のお話」午後「運動指導」

電話で町田市コールセンター ☎724・5656へ。

落選者のみ前日までに健康課からご連絡します。

健康課 ☎725・5178

1月の検診のご案内

問 健康課 ☎725・5178

検診名	対象	期 日	会 場	内 容	定員	費 用	受診できない方	申し込み	受診案内	
肺がん	40歳以上	28日(月)	健康福祉会館	問診、レントゲン直接撮影、かくたん検査	100人	1,200円	【共通】 既に何らかの自覚症状がある方(病院で受診して下さい) 妊娠中または妊娠の疑いがある方	申し込み 電話で町田市コールセンター ☎724・5656へ。	1月上旬までにお送りします。	
胃がん	35歳以上	21日(月)	鶴川市民センター	問診、レントゲン間接撮影(バリウムを飲みます)	各日50人	800円	【肺がん検診】 肺に関する疾患で経過観察中、治療中、手術後の方	申し込み 電話で町田市コールセンター ☎724・5656へ。	受診日の10日前までにお送りします。	
		22日(火)	健康福祉会館							
		23日(水)	木曾山崎センター							
		24日(木)	健康福祉会館							
		25日(金)	健康福祉会館							
乳がん	2007年4月1日～2008年3月31日の誕生日で40歳～70歳の偶数歳となる女性	17日(木)	多摩丘陵病院(下山小町1491)	問診、視触診、マンモグラフィ(乳房X線撮影)	各日多摩丘陵病院10人	2,800円	【胃がん検診】 胃に関する疾患で経過観察中、治療中、手術後の方 過去1年以内に心臓の発作や脳梗塞等の脳疾患を発生したことがある方 現在治療中の急性期の疾患をお持ちの方 まひなどがあり検診台の上で自力で回転できない方	申し込み 電話で町田市コールセンター ☎724・5656へ。	受診日の10日前までにお送りします。	
		18日(金)								健康福祉会館
		21日(月)								健康福祉会館
		22日(火)								健康福祉会館
		23日(水)								健康福祉会館
		24日(木)								健康福祉会館
		18日(金)								健康福祉会館
19日(土)	健康福祉会館									
21日(月)	健康福祉会館									

上記検診はいずれも町田市民で、職場等で検診の機会のない方が対象です。肺がん・胃がん検診は年度内(2007年4月～2008年3月)に1回受診できます。乳がん検診は2年に1回受診できます。希望日で割り振りしたうえで定員を超えた場合は、検診日ごとに抽選を行います。抽選にもれた方には、個別に通知します。

集団検診のため、希望時間の指定ができないことをご理解下さい。なお1月は女性が先に検診します。【非負担について】 次の方は無料になります。老人保健法医療受給者証をお持ちの方 高齢受給者証をお持ちの方 平成19年度の市民税非課税世帯の方 生活保護受給世帯の方 受診者に郵送される申込書により、検診当日に「負担・非負担」の届出をして下さい。

健康案内

検 診

